

# ANDESシリーズ

ANDES 電設 WinVersion3.9

新機能&改良機能紹介



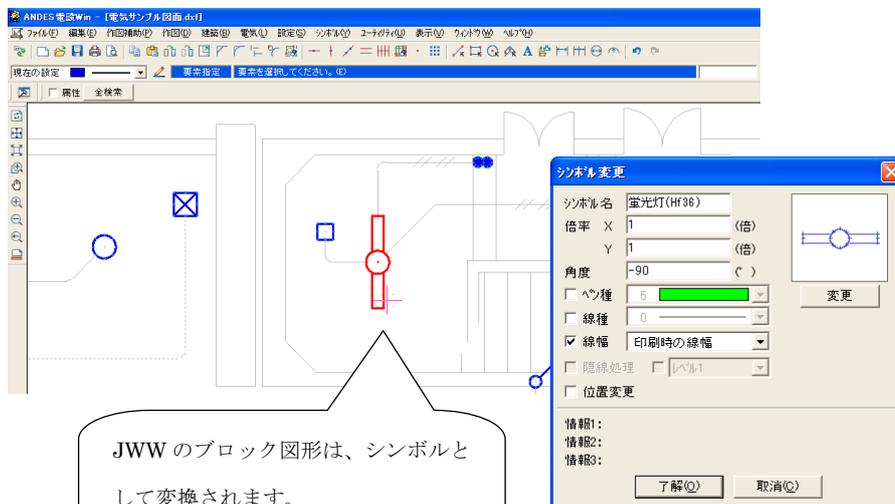
## JWW のブロック図形の復元・保存

Ver3.9では、JWWのブロック図形をシンボルに変換して読み込むことができます。また、ANDESシンボルをJWWのブロック図形として保存することができます。

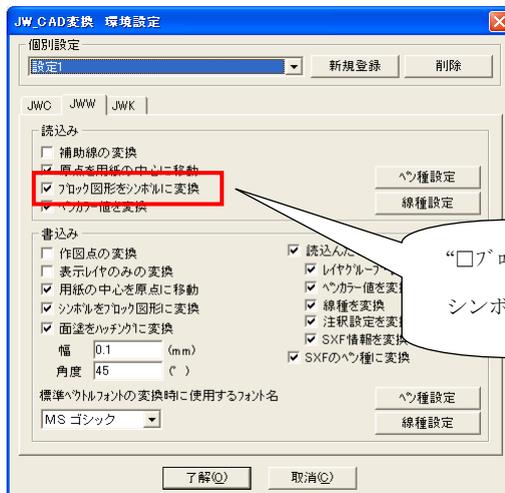
### 1. ブロック図形復元



↓ ANDES で復元



JWWのブロック図形は、シンボルとして変換されます。  
シンボルとして編集が可能です。

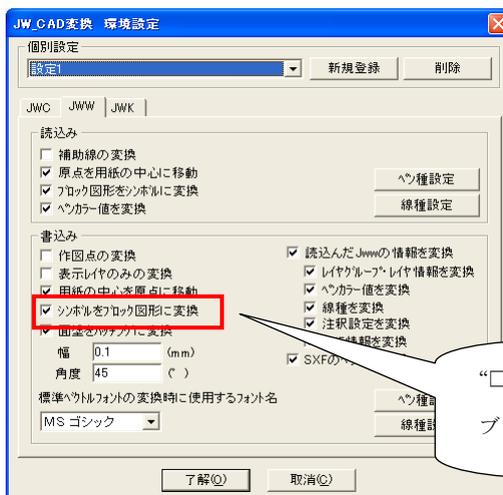
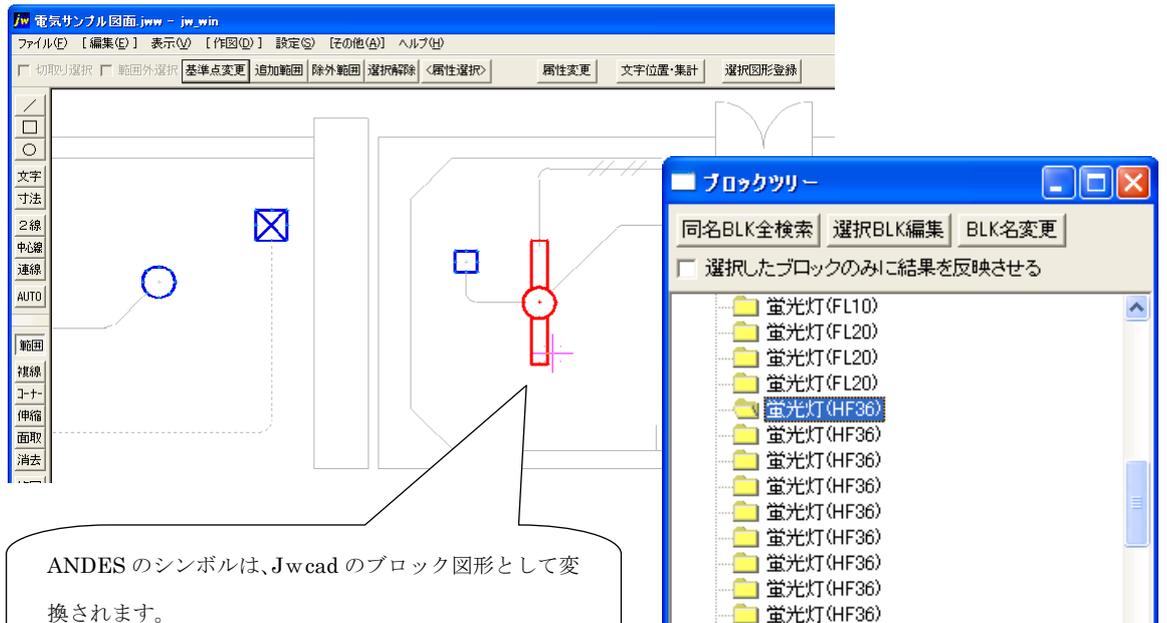


“ブロック図形をシンボルに変換”にチェックを入れることで、シンボルとして読み込むことができます。

## 2. ブロック図形保存



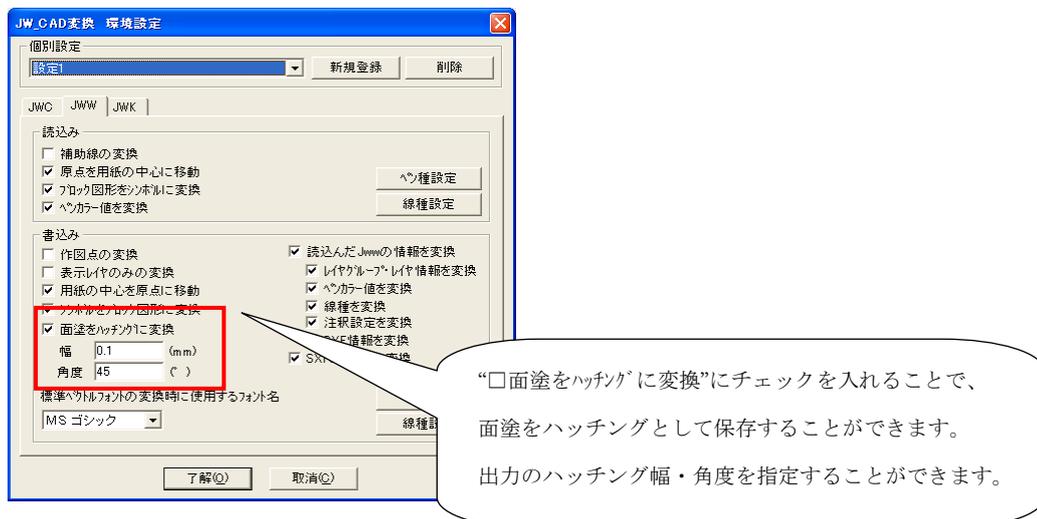
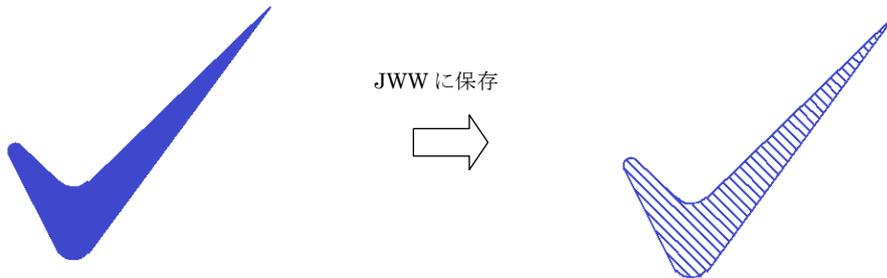
↓ JWW に保存



“シンボルをブロック図形に変換”にチェックを入れることで、ブロック図形として保存することができます。

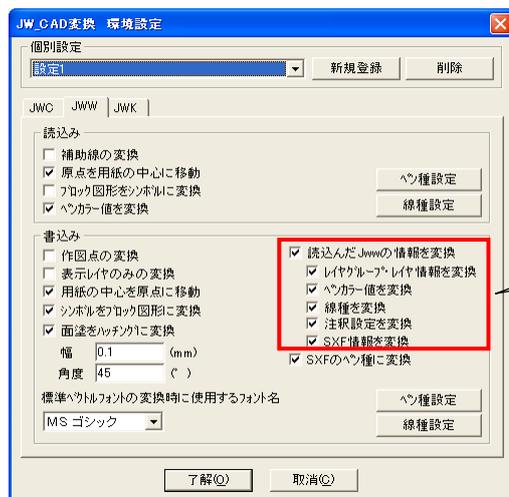
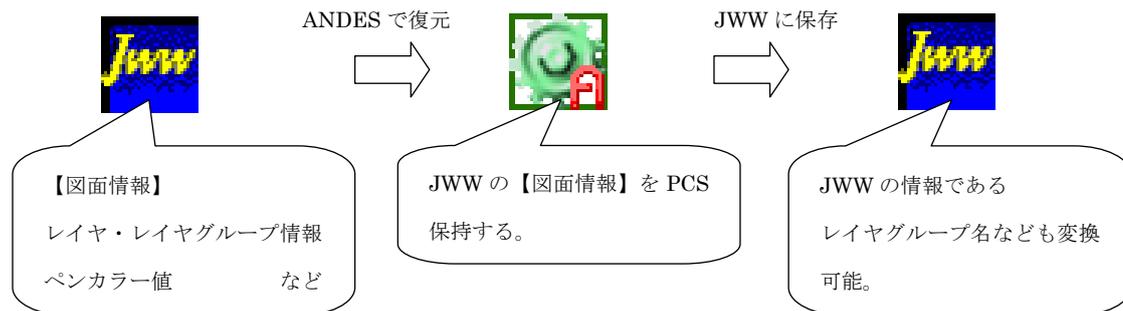
## JWW の面塗の保存

Ver3.9 では、ANDES 面塗をハッチングに変換し JWW の形式に保存することができます。  
 これにより、PDF の面塗で表現された文字や罫線などを変換した場合でも、JWW 上で表示することができます。



## JWW の図面情報の復元・保存

Ver3.9では、JWWの図面に保存されている情報を復元・保存ができます。JWWの図面情報には、「レイヤ・レイヤグループ」「ペンカラー値」「SXFのペン種・線種」の情報などがあります。これらの情報を復元・保存することで、ANDESにはないレイヤグループ名などの情報をそのままJWWの図面に戻すことができます。これにより、図面の受け渡しをスムーズに行うことができます。

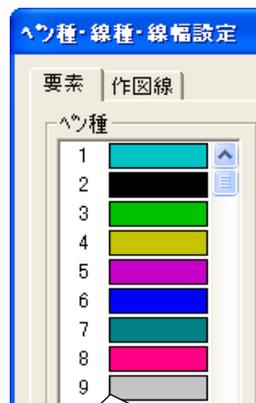


“読み込んだJWWの情報を変換”にチェックを入れることで、JWWの図面情報を保存することができます。

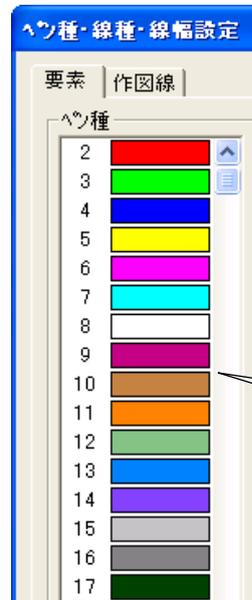
## JWW のペンカラー値の復元

Ver3.9では、JWWの図面を復元した場合、JWWの図面情報にあるペンカラー値をANDESのペンカラー値に反映することができます。

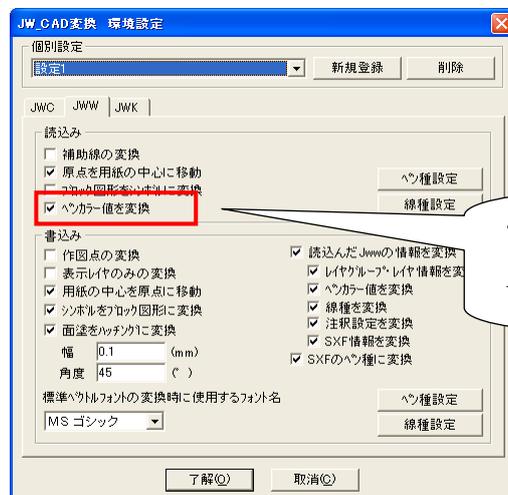
これにより、見た目の色がJwcadで表示した場合と同じように表示することができます。



JWWの標準ペン種が使用されている図面では、1～9番までのペン種が変更されます。



JWWのSXFペン種が使用されている図面では、1～16番とユーザー定義色のペン種が変更されます。



“ペンカラー値を変換”にチェックを入れることで、ANDESにJWWのペンカラーを読み込むことができます。

## JWW の SXF ペン種・線種の復元・保存

Ver3.9 では、Jwcad の SXF 対応拡張線色・線種で書かれた図面を復元・保存することができます。

これにより、色や線種が変わることなく図面の受け渡しを行うことができます。

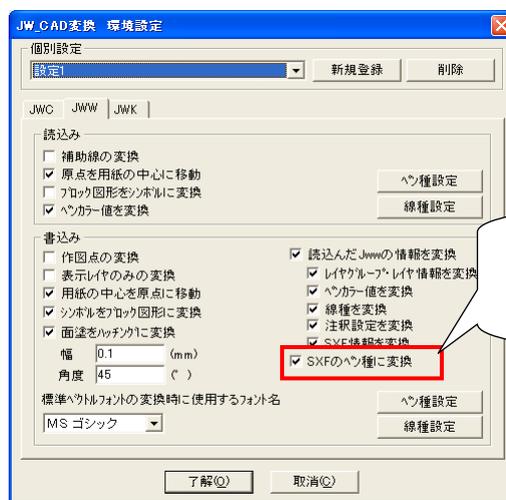
【JWW】

ペン番号 SXF・18 番  
線種 ユーザー定義線種



【ANDES】

ペン番号 18 番  
線種 ユーザー定義線種



“SXFのペン種に変換”にチェックを入れることで、ANDES から JWW に SXF ペン番号で保存することができます。

## 2. 電気機能

### 機器化

Ver3.9 では、Jwcad・AutoCAD のブロック図形を電気の機器へ変換を行うことができます。

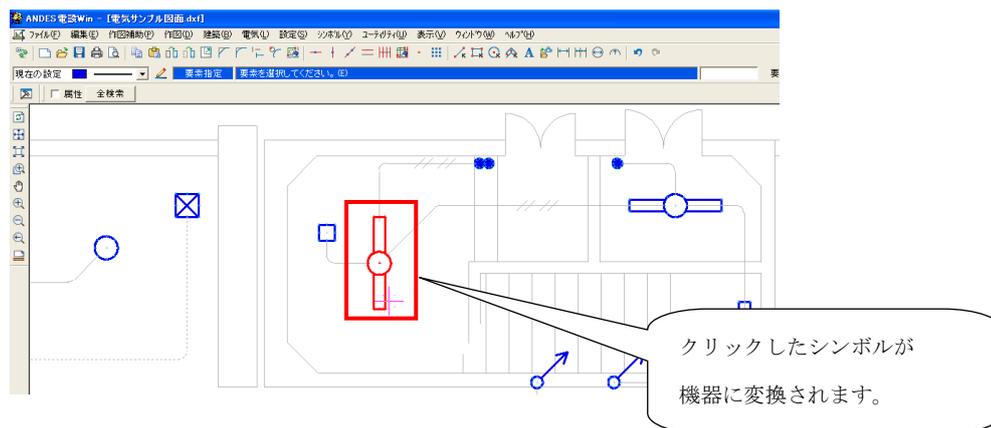
これにより、機器の書き直しの手間を削減することができます。また、変換した機器の編集、凡例表作成、拾いなどの後工程にも利用することができるため図面作成にかかる時間を大幅に削減することが可能です。

※機器化できる図面については、読込む図面のデータの影響があります。

#### 1. 単一機器化

JWWまたはDXF・DWG形式のファイルを読み込みます。ブロック図形がある場合シンボルに変換されてANDESに読み込まれます。

【単一機器化】コマンドを起動しシンボルを選択します。選択されたシンボルが機器に変換されます。



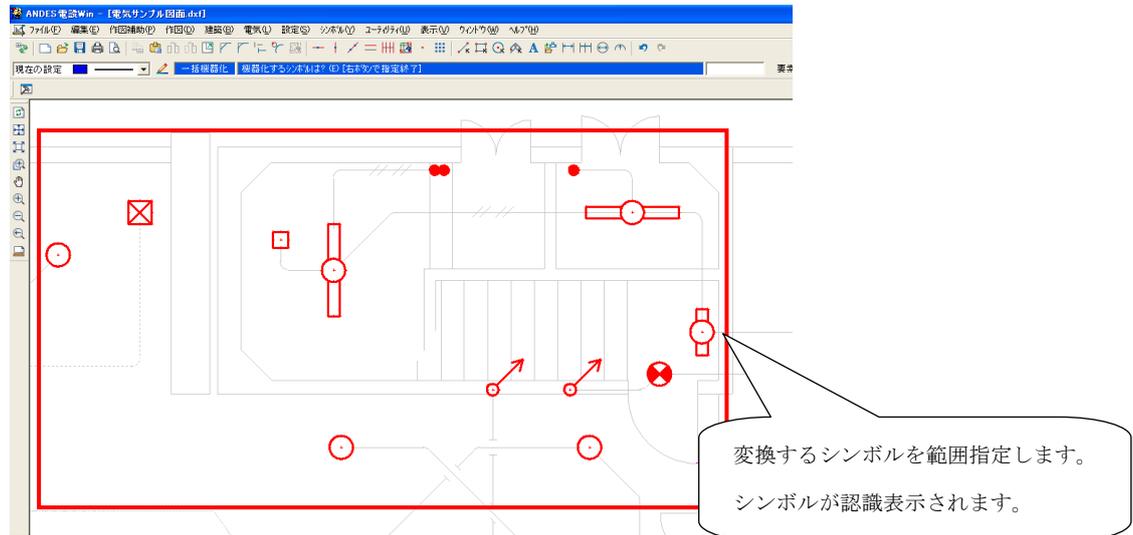
【シンボルのクイックメニューからコマンド起動】



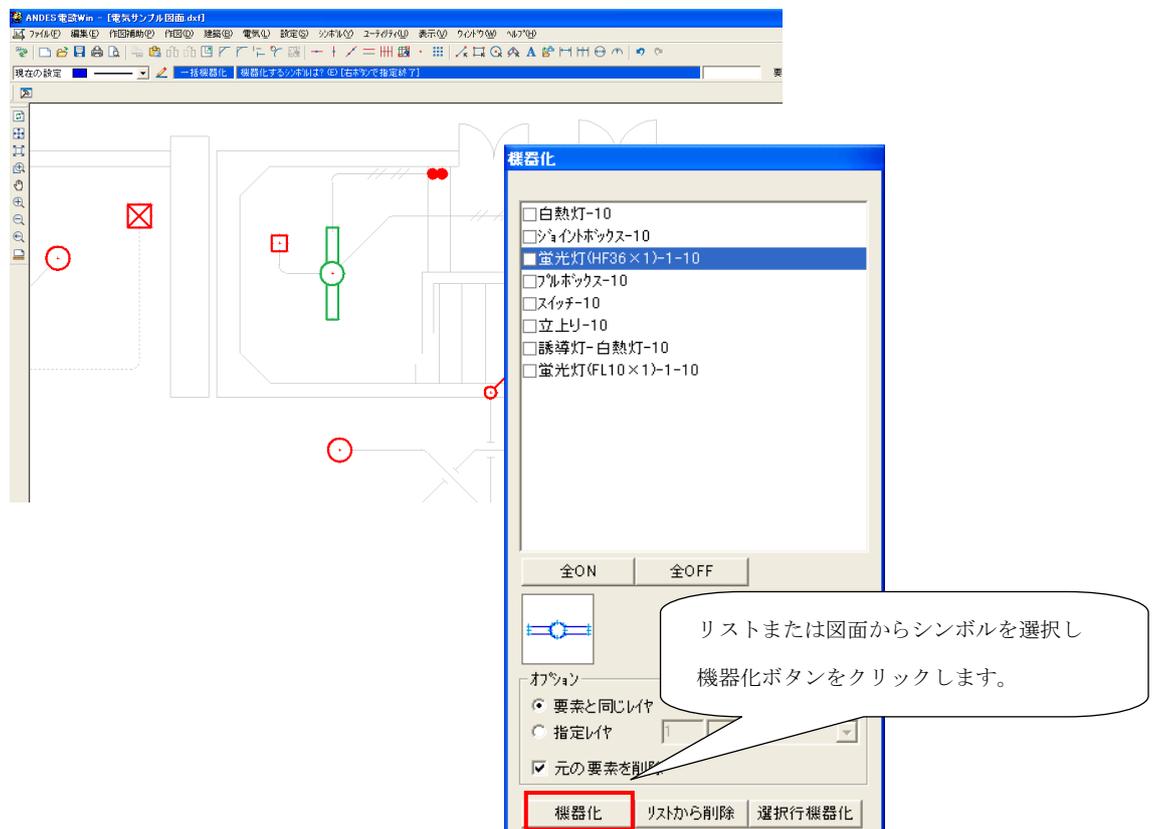
## 2. 一括機器化

JWWまたはDXF・DWG形式のファイルを読み込みます。ブロック図形がある場合シンボルに変換されてANDESに読み込まれます。

【一括機器化】コマンドを起動し範囲指定でシンボルを選択します。右クリックするとダイアログが表示され、次のオペレーションに進みます。



ダイアログのリストまたは図面よりシンボルを選択し<機器化>をクリックすると選択されたシンボルが機器に変換されます。



### 3. 変換の注意事項

機器化コマンドは、読込んだ JWW や DXF・DWG ファイルの状態によって、動作が異なります。

JWW や DXF・DWG は、出力された CAD によってブロックの出力され方が異なります。他社の CAD では同様の図形でも別のブロック名として出力されるものがあります。

※上記のように別ブロック名で出力のされたデータでは、機器化をすることは可能ですが全てが異なる機器となるため運用しづらいデータとなります。

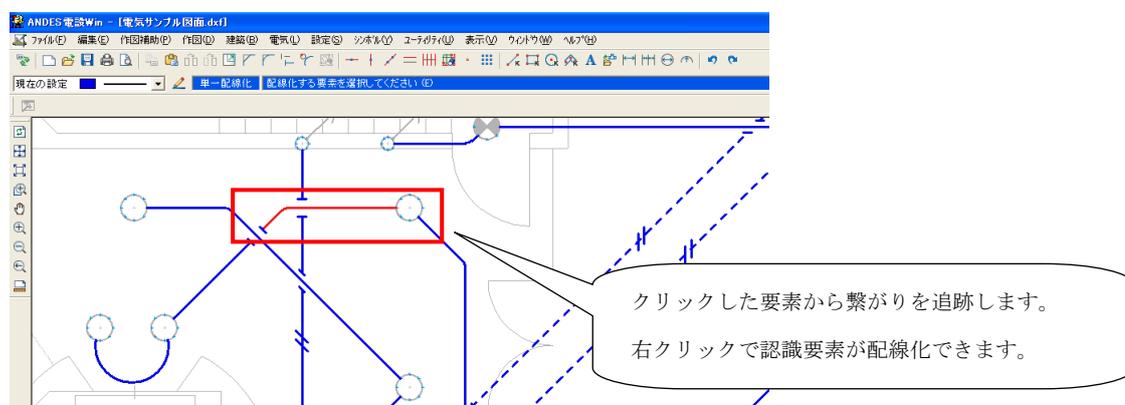
## 配線化

Ver3.9では、線分および円弧を電気の配線へ変換を行うことができます。

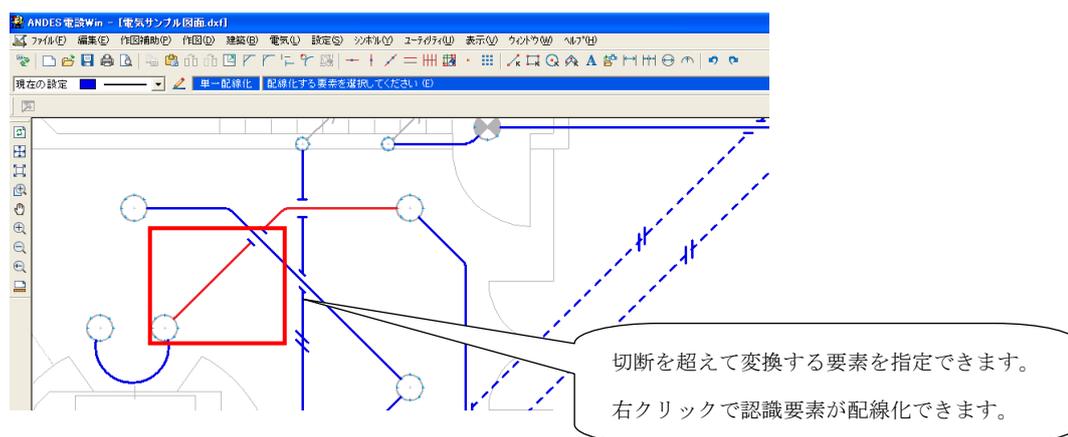
これにより、配線の書き直しの手間を削減することができます。また、変換した配線の編集、注記表作成、拾いなどの後工程にも利用することができるため図面作成にかかる時間を大幅に削減することが可能です。

### 1. 単一配線化

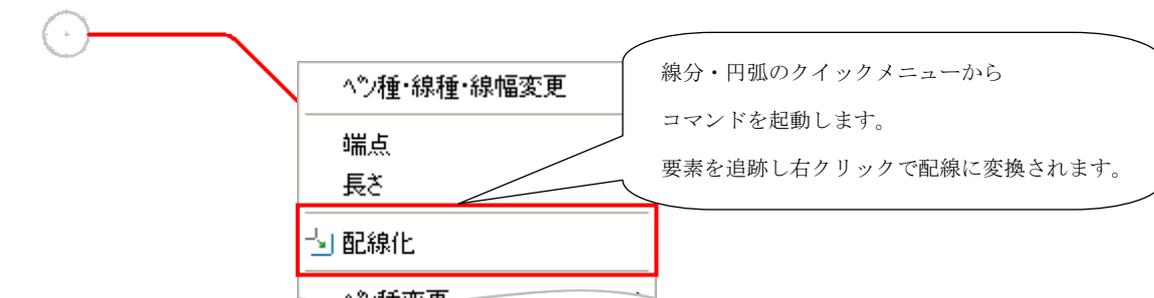
【単一配線化】コマンドを起動し線分または円弧を選択します。要素のつながりを追跡し配線に変換される要素が認識されます。認識要素を変換したい場合は右クリックで配線化できます。切断を超えて指定したい場合は、さらに要素を選択します。



端の要素から一直線上の線分であれば切断を超えて指定できます。右クリックで配線化ができます。

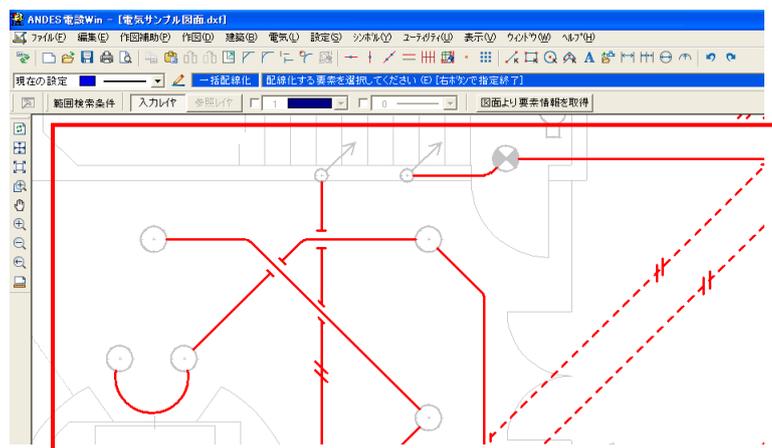


【線分・円弧のクイックメニューからコマンド起動】



2. 一括配線化

【一括配線化】コマンドを起動して囲指定で線分・円弧を選択します。右クリックすると認識された要素が配線化されます。



変換する線分・円弧を範囲指定します。右クリックを行うと認識された要素が配線化されます。